

旧川越織物市場

織物業は明治時代、わが国の基幹産業の一つでした。しかし明治の末ごろになると、金融恐慌の影響を受けて織物業は大きな打撃を受けました。この状況の中、旧川越織物市場は、川越の織物流通業界の起死回生の期待を担って、明治四十三年（一九一〇）に建設されました。

市場は、広場を挟む木造二階建ての長屋二棟で構成され、平成十三年までは賃貸住宅として使用されてきました。建物の前面には長めのひさし空間があり、足利市や桐生市の織物市場に似たスタイルになっています。

一階の格子戸と雨戸の二重の揚戸は、共に潜戸を持つ珍しい納まりで、格子越しに内部を見せるショーウィンドー的な役割を果たしています。

さらに、和風建築ながら、ひさは当時近代的な建築材料だった、亜鉛大波鉄板を用いるなど、機能的重視だけでなく、大正モダンを控えた時代意識が具現化された建物とも考えられています。

市場建築としていろいろな特徴を備えるとともに、建築当時の時代背景もうかがえ、また建築当時の材料もよく残されています。さらに、織物市場という産業遺構としての希少価値も高く、ことし三月に市指定文化財となりました。



TV わが街川越 番組ガイド

編集後記

どんぐり

市民の方からキリの花を頂きました。花のそばを通ると、懐かしいような柔らかな香りがします。今まで、高い所に咲いている花を見上げるばかりで、香りについてはまったく知りませんでした▶年末・年始と同様に、まとまった休みが取れるゴールデンウィーク、ふるさとへ帰省した方もいらっしゃるのでは？ 地元に残っている身としては、帰省した学生時代の友人に会うのが楽しみな時期。今回は4人が集まりました。まずは、再会を祝して乾杯。髪に白い物が混じり、体型も多少変わったものの、すぐに20年前へタイムスリップして、よもやま話に花が咲きます。進んだ道がばらばらな友人たちの話は耳新しく、物事を考えるうえで違った視点をもたらしてくれます▶まだまだ知らないことがあると実感した、ことしの5月。子どもにせがまれたこともあって、小江戸縁日大会には2日とも行ってしまいました。



茶摘みの様子（上戸）

みどりのしずく、河越茶ができるまで、かつて川越が、茶の産地として有名だったのを存じですか？川越と茶のかかわりや、茶摘みの様子・製造過程などについて紹介します。まちの話題は、蓮馨寺で行われた花まつりの様子をお伝えします。

テレビ埼玉（38ch）

6月4日(土)／午前9時30分～9時40分

6月5日(日)／午後5時30分～5時40分

川越ケーブルテレビ（15ch）

6月4日(土)～17日(金)

午前9時20分～・午後0時45分～・午後4時20分～・午後5時45分～・

午後8時45分～（金～日曜日）・午後10時50分～（月～木曜日）

テコケーブルテレビ（9ch）

6月20日(月)～26日(日)

午前6時30分～・午後0時30分～・午後4時30分～・午後7時30分～・午後9時30分～

*変更になることがあります。あらかじめご了承ください。